

日本専門新聞特集号

発行 公益社団法人
日本専門新聞協会
編集 広報委員会
住所 〒105-0001 東京都港区虎ノ門
1-2-12 第2興業ビル
TEL.03-3597-8881 FAX.03-3508-8888
http://www.senmonshinbun.or.jp

入選キャッチフレーズ

日本専門新聞協会は、第74回新聞週間にちなみ「新聞週間キャッチフレーズ」を全国から募集していたが、その入選が次のように決まった。(敬称略)

- 〈優秀作〉

コロナ後の 社会読み解く 専門紙

欠かせぬ情報 確かな未来 山下真宏 (一般応募)
- 〈佳作〉

コロナ禍が 変える社会を 読みといて 穂山定文 (一般応募)

未来のしるべ 専門紙
- 〈佳作〉

専門紙 未来を照らす 道しるべ 松田柚花 (一般応募)

業界支え 共に生き抜く

令和3年
第74回
新聞週間

日本専門新聞大会 フェスティバル

第1部

後藤謙次氏が講演



例年、大盛況の講演会会場

公益社団法人日本専門新聞協会(入澤亨理事長)は、10月19日に東京・千代田区内幸町の帝国ホテル「富士の間」において「第74回新聞週間 日本専門新聞大会フェスティバル」を開催する。今回 同フェスティバルは、10月15日から1週間にわたる新聞週

第74回 日本専門新聞大会

大会アピール

新型コロナウイルスは、われわれの日常生活を一変させ、いまだ収束の見通しが立たない状況にある。
前例のない危機の渦中で、これまで経験したことのない深刻な不安が生じ、不確かな情報が混乱や分断をもたらしている。
大きく変容する社会の中で、信頼性の高い情報が求められる今だからこそ、正確で公正な報道により、責任ある言論活動を行わなければならない。
われわれ専門新聞は、課せられた責務をあらためて認識し、ポストコロナを強靱で持続可能な社会へ導く使命を全うすることを、ここに宣言する。

大会スローガン

- ポストコロナへ向けて、より正確で有益な情報を発信しよう!
- すべての専門新聞への消費税軽減税率の適用を実現しよう!
- 国民の知る権利に応えるため、第三種・第四種郵便制度を堅守しよう!

総勢 13 人を表彰

日本専門新聞協会は、毎年、日本専門新聞大会式典で、加盟社の社員に対し表彰を行っているが、令和3年度は総勢13人を表彰することになった。

《表彰》

(敬称略)

功労章	
川邊 伴子	(大分建設新聞社)
功績章	
菊池 英也	(日刊建設タイムズ社)
小山 紀夫	(薬事日報社)
積田 朋子	(観光経済新聞社)
優良社員表彰	
林 晃	(環境新聞社)
下山 武彦	(建通新聞社)

優良社員表彰	
立花 大輔	(国際農業社)
尾立 志保子	(国際農業社)
腰越 謙太郎	(日本工業経済新聞社)
堀川 貴子	(日本工業経済新聞社)
森 大樹	(日本電気協会新聞部)
新田 剛大	(日本電気協会新聞部)
根本 祐輔	(福島建設工業新聞社)

後藤氏は1973年に早稲田大学法学部を卒業。共同通信社に入社し、82年から本社政治部、首相官邸、自民党(旧田中派担当)、外務省、野党担当、自民党クラブキャップ、首相官邸クラブキャップ、政治部次長、政治部長などを歴任。2004

「これからの日本の政治・外交はどうなる―衆議院選挙を見据えて―」と題する講演会が行われる。

間に合わせて、専門新聞として社会の期待に応える決意を内外に示す事業として開催。例年は政官界、経済界をはじめ各国大使などを広く招いているが、今年は現下のコロナ情勢を勘案して招待者数を縮小するほか、レセプションの開催を中止することとした。

年11月に論説副委員長兼編集委員、06年6月に編集局長となり、07年10月に同社を退社。
05年3月から06年5月までTBS系ニュース番組「イヴニング・ファイブ」コメンテーター、07年12月から09年3月まで「NEWS 23」キャスター、09年3月から10年3月まで「総力報道! THE NEWS」など多数。

協会だより



「5月24日(月)」第98回通常総会を如水会館3階において開催。令和2年度事業報告、同収支決算報告を慎重に審議した結果、それぞれ議決承認された。また、同総会において役員改選が行われ、理事13名、監事2名が選任された。「6月15日(火)」協会関西支部では関西に本社、支局を置く加盟

社による令和2年度第54回定時総会を開催し議案承認された。「9月7日(火)」新聞週間にもない募集していたキャッチフレーズ審査会を開催。キャッチフレーズ入選作品第二次選考を行い、2873点の中から15点を選考し、理事会に提出した。「9月8日(水)」第28回日本専門新聞写真コンクールの審査を、当協会が要請した日本写真協会会員2名の審査員が行った。全国から応募

された976点を審査した結果、文部科学大臣賞、理事長賞、審査委員長賞、加盟社特別賞をそれぞれ1点、秀作14点を選考し、新聞大会で表彰することとした。「9月14日(火)」第533回定例理事会においてキャッチフレーズ審査会で先に選考した15点の作品の中から優秀作1点、佳作2点をそれぞれ選考し、新聞週間に合わせて発表することとした。

著書に「竹下政権576日」「日本の政治はどう動いているのか」「小沢 50の謎を解く」「ドキュメント平成政治史」など多数。

第1部の時局講演会に続き、午後4時20分からは第2部の記念式典が開かれる。大会会長の入澤亨理事長によるあいさつ、文化庁長官の祝詞があり、さらに加盟社代表者、顕彰、加盟社優良社員表彰、写真コンクール入賞作およびキャッチフレーズ入選作の発表が行われ、最後に大会アピールを宣言して閉会する。

第74回 日本専門新聞特集号 挨拶



デジタル社会の到来と協会運営

公益社団法人 日本専門新聞協会 理事長 入澤 亨

第74回新聞週間、日本専門新聞大会開催にあたり一言ご挨拶を申し上げます。

最初に、新型コロナウイルスに不運にも感染し亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますと共に、ご遺族の方々には謹んでお悔やみを申し上げます。一方、医療従事者の皆様は、常に感染の危険と隣り合わせにいながら、日夜懸命に医療活動に励んでいる姿勢を目の当たりにして、心より感謝申し上げます。

また、本日は大変お忙しいところ、文化庁をはじめご来賓の皆さまにご出席をいただいております。誠にありがとうございます。

さて、先月末27都道府県に長く発令されていた緊急事態宣言やまん延防止等重点措置がようやく全面解除に至り、政府は段階的に経済活動を再開することで、感染対策と日常生活の両立を目指す方向に舵をきりました。

想い起せば1年9か月前、横浜港に入港したダイヤモンド Princess 号が我が国でのコロナ危機あるいはコロナ対応の始まりとなり、東京2020大会期間中に全国で連日200000人を超える感染者を数えた感染第5波を経て、その後のワクチン接種の効果もあり感染者数は大きく減少に転じています。この夏、多くの若者がワクチン接種の為に早朝から並んでいる様子を見て、これが世界に誇る医療先進国の現状かと残念で情けなくなりました。この先は、何としても欧米に頼らないワクチンや治療薬の早期の純国産化実現を目指して頂きたい。

これから冬本番を迎え、感染第6波の懸念があるなかで時間の猶予はありません。いまだ度政府、自治体、医師会にて迅速に対応できる効率的な医療体制の再構築が求められます。

ところで、自民党総裁選を勝利し

た岸田氏は、臨時国会で第100代首相に指名され新政権を発足させました。岸田新政権は所得の再分配による格差是正や大規模な経済対策によって、日本経済を活性化させ新たな成長軌道へと目指す方針ですが、コロナ対策は勿論のこと、衆院選、そして来年夏の参院選、あるいは外交・安全保障など多くの試練が待ち構えていて、前途は多難な様相となっています。

さて、平成24年4月に内閣府より日本専門新聞協会は公益社団法人として認定を受け、新たなスタートを切りました。以来皆様のご支援を受けて、来年4月には早やくも10年の節目を迎えることになります。10年が経過した今、世の中は9月に発足したデジタル庁に象徴されるように遅れていく我が国のデジタル化を官民挙げて推進しています。



岸田内閣には、大いに期待いたします 総選挙に、全力をあげて下さい

日本専門新聞政治連盟 会長 大塚 一雄

第74回日本専門新聞大会の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

現在の公益社団法人・日本専門新聞協会は、ご案内のように1947年(昭和22年)2月、戦後の日本経済社会文化事業等の復興再建に必要な新聞発行と、その紙不足統制に配慮された当時の連合国軍総司令部の指導のもと、設立された専門紙の報道集団であります。

爾来74年。日本の文化社会産業経済等の各分野に特化した新聞・通信発行各先輩経営者各位の知恵と努力の結晶により、今日では社団法人・日本新聞協会に勝るとも劣らない立派な社会的認識度の高い立場に、飛

躍発展をいたしました。

しかしながら創立以来70数年目に於いて、人間力ではどうにもならない大自然の猛威である新型コロナウイルスに取材活動も日々脅かされて、いままお苦難の毎日を送っているのが現状であります。

新型コロナウイルス感染症は地球規模で世界的に感染蔓延して以来、間もなく2年となりますが、最先端医学のワクチン接種により、最近ではやや下火になりつつあります。しかし年末にかけて、いつ第6波が襲来するかは全く予断を許さない状況にあります。

このような時に、コロナ禍対策にやや遅れをとったために国民の不評を

ではありません。さらに、協会加盟社の皆様と関わりの深い著作権に関しての動向についても、特に教育現場での著作権利用に関してはデジタル化の影響を受けて従来の無料化から有料化へと大きく方向転換しています。

この様に時代は大きな転換のときを迎え、私達はまさにその渦中にいます。この潮流を見誤ることなく、協会の運営に誠心誠意取り組んで参る所存でございます。

ご承知の通り、協会では特命委員会にて短期・中期・長期のそれぞれの課題を設定。公益の増進という高い志を礎に、公益法人として対処しなければならぬ課題に真摯に取り組んでいます。何卒、今後とも協会運営につきましても皆様の指導、ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

本来であれば、第3部として皆様との親睦、懇談の場としてレセプションを予定していましたが、誠に残念ですが、感染防止の為にレセプションは自粛させていただきました。

最後になりましたが、加盟社の社業のご発展、ご隆盛、そして皆様のご健康、ご多幸を心よりお祈り申し上げます。私の挨拶にさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

かつた菅首相が、急遽退陣を表明いたしました。

そのあと総裁公選の結果、岸田新総裁が選ばれ、10月4日に岸田首相内閣が発足いたしました。

岸田新内閣は、まずコロナ感染症対策に万全の措置を講ずることが、差し当たつての緊急政策課題であります。長期間にわたつての疲弊し切つた国民生活の立て直し。加えて人流のストップで経営不振や倒産寸前に追い込まれた企業並びに経済界の抜本的再建策が急務でもあります。

過日、新発足の岸田内閣は新人抜擢や政策通議員の登用でそれなりに新鮮味のある内閣ではありますが、これら大臣の方々の本格的な活躍も10月19日公示、31日投票の総選挙後になるものと思われまます。

岸田新首相は就任記者会見で、企業格差や貧富の差の激しくなった新自由主義経済の負の資産の状況等を見直し、加えて原発や新エネルギー分野等でもそれなりの岸田カラーを出していく方向のようですが、国

際情勢の緊迫化やその他重要政策課題についての具体的実施方向性についても、これまた全てが総選挙の結果次第であると思われまます。

近年、言論の自由にと借りて、一部マスコミと自称する分野には、政府筋の粗探しと必要以上の悪口雑言や、さも意図ありげな政治批判をする向きもありまます。我々日本専門新聞協会の各紙は、それぞれの職域業域分野から特に選ばれた全員のエリート報道集団であります。従いまして不偏不党・厳正中立が報道の基本姿勢であります。

選挙後の岸田内閣並びにその内閣を支える与党議員の方々の、コロナ禍不況後の国づくりや地域社会づくりには、各専門分野の報道機関として全面的にご協力・ご支援の方針でありますので、当協会並びに当政連の活動に対しまして今後とも更なるご支援・ご協力のほどをお願い申し上げます。私の挨拶といたします。

読者総数は1,200万人に

専門分野から厳選された協会加盟社84社



役員活動体制

<協会役員・顧問>

名誉会長	波田幸夫	(環境新聞社)
理事長	入澤 亨	(官庁通信社)
副理事長	西原一裕	(水道産業新聞社)
〃	石井貞徳	(旅行新聞新社)
〃	菊池英也	(日刊建設タイムズ社)
専務理事	須貝律緒	(日本専門新聞協会)
常任理事	積田朋子	(観光経済新聞社)
〃	古川興一	(創樹社)
理事	金子眞紀子	(国際農業社)
〃	鈴木俊一	(社会保険研究所)
〃	小屋勝志	(カーアンドレジャーニュース)
〃	河合良紀	(建設新聞社)
〃	篠本 勝	(日本水道新聞社)
監事	仁平英紀	(東京交通新聞社)
〃	秋山智昭	(秋山弁護士事務所)
顧問	大塚一雄	(金融タイムス社)

<政治連盟役員・顧問>

会長	大塚一雄	(金融タイムス社)
会長代行・会計幹事	長島貴好	(アイク)
幹事長	西原一裕	(水道産業新聞社)
副幹事長・会計幹事	須貝律緒	(日本専門新聞協会)
幹事	積田朋子	(観光経済新聞社)
監査	秋山智昭	(秋山弁護士事務所)
名誉顧問	波田幸夫	(環境新聞社)
特別顧問	阿部 勲	(政治連盟)

<協会役員業務分掌>

統括	入澤 亨		
内務担当	石井貞徳		
渉外担当	西原一裕		
特命担当	菊池英也		
総合	須貝律緒		
総務委員長	西原一裕		
委員	入澤 亨	石井貞徳	菊池英也
	積田朋子	古川興一	
組織委員長	石井貞徳		
委員	入澤 亨	西原一裕	菊池英也
	積田朋子	古川興一	
記者会委員長	西原一裕		
委員	河合良紀	金子眞紀子	鈴木俊一
	仁平英紀		
広報委員長	菊池英也		
委員	金子眞紀子	鈴木俊一	篠本 勝
	仁平英紀		
国際交流委員長	石井貞徳		
委員	小屋勝志	篠本 勝	
情報化委員長	古川興一		
委員	鈴木俊一	小屋勝志	河合良紀
	仁平英紀		
社会文化委員長	積田朋子		
委員	篠本 勝	金子眞紀子	小屋勝志
	河合良紀		
新聞大会運営委員長	石井貞徳	全役員	
関西支部	西原一裕		
霞門倶楽部代表幹事	西原一裕		
幹事	篠本 勝	秋山智昭	

芝公園のもみじ谷のモニュメント

『複眼的報道の塔』



時代を見すえ悠久の時を刻むソーラー電波時計

平成16年10月、25年後の後進に夢を託し、塔の基礎部分には当協会の歴史と伝統を次の世代に伝えるため、各加盟社発行の記念紙に記念品を添えて収納し建立したものです。

石原慎太郎元東京都知事をはじめ、都議会議員長、建設局長等の協力と支援を得て、都立公園では130年と最も古く、由緒ある芝公園内に、ソーラー三面電波時計付き「複眼的報道の塔」を建立・寄贈したものです。

第74回新聞週間
第28回日本専門新聞

写真コンクール

2020年度はコロナ禍により、日本専門新聞写真コンクールは開催できませんでしたが、本年2021年度 第28回、日本専門新聞写真コンクールが開催される運びとなり、本来にうれしく思っております。協会の皆様、各加盟社の協力で一般読者の皆様の作品が例年に増して多く寄せられ総数は、976点に達しました。



審査は、関口照生、林義勝、共に日本写真家協会会員の両名で行いました。最優秀賞、文部科学大臣賞には、一般公募の中島明俊氏の「月と太陽のめぐりと富士」が選ばれました。夫婦岩のバックに朝日・夕日・月が上がるのを時をかけ丹念に撮られています。特に太陽・月の形の違いがこの写真の魅力でもあります。技術もしっかりしていて定点観測の組写真として成功しております。

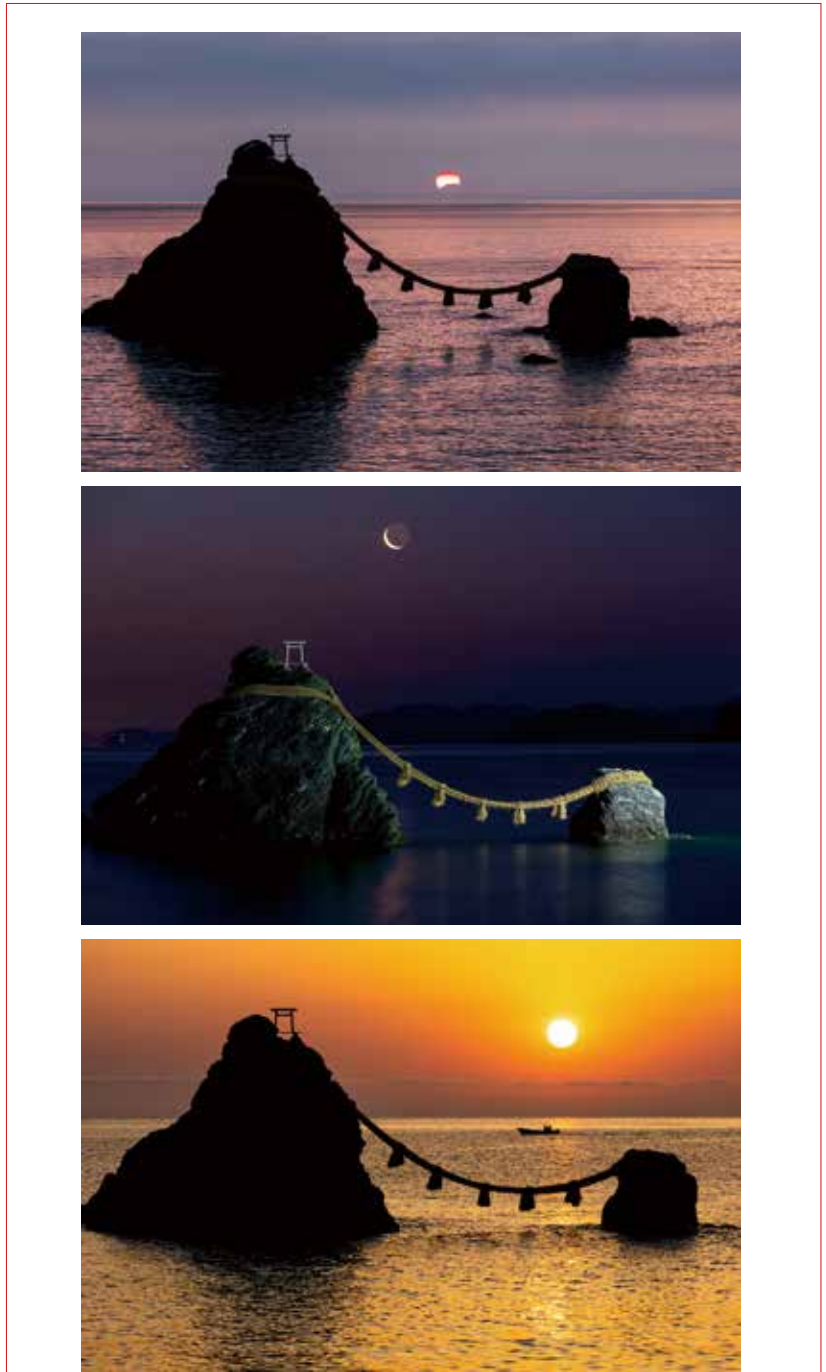
理事長賞は一般公募の田中雅之氏の「だるまさんは見えた」の三枚の組写真です。たくさんのだるまさんの前を通りかかる人々の姿をほぼ同じ位置から撮っている、トップの日傘の女性の風情がいいですね、ユーモラスな見えていて楽しくなる写真です。



関口 照生氏
日本写真家協会会員
倉敷芸術科学大学客員教授

審査委員長賞は一般公募の渡邊哲康氏の「シャドーアート」。やはり三枚の組写真です。この写真の素晴らしさはアイディアとモノクロで仕上げたところにあると思います。やわらかいトーンと造形がおしゃれな現代写真にしています。

文部科学大臣賞など
入賞作品18点決まる
審査委員長講評
公益社団法人日本専門新聞協会は第74回新聞週間を迎えるにあたり、アマチュア写真家および加盟各社の写真・読者を対象に「第28回日本専門新聞写真コンクール」の作品を募集していたが、審査会、理事会でそれぞれ入賞作品が決定。受賞者は10月19日の日本専門新聞大会フェスティバルに於いて表彰される。



文部科学大臣賞
月と太陽のめぐりと富士
中島明俊 / 一般応募
この度は、文部科学大臣賞という名誉ある賞をいただきまして、大変嬉しく光栄に思います。三重県にある名勝、二見浦の夫婦岩では夫婦のように寄りそう岩の間から昇る日の出を5月から7月に見ることができます。夏至の10日前後の天気の良い日には、約200km先にある富士山の背から昇る日の出を見ることができ、その時と前後の月と太陽のめぐりを組み写真にしました。この賞を励みに今後も美しい風景を撮ってきたいと思います。



理事長賞
だるまさんは見えていた
田中雅之 / 一般応募
この度は、多数に上る応募作品の中から、私の拙作を選出いただき誠にありがとうございます。普段より人のいる情景を撮り続けておりますが、昨今のコロナ禍で祭りやイベントがことごとく中止となり、撮影機会もやる気も大きく減退しておりました。それでも愚直にカメラを持って出掛けていたのですが、思いがけず素敵なシーンを収めることが出来ました。この望外の賞を賜うことで、改めて行動することの大切さを認識した次第です。



審査委員長賞
シャドーアート
渡邊哲康 / 一般応募
この度は、初めての応募にも拘らず、このような名誉ある賞を頂き、誠にありがとうございました。勤めをリタイヤして、趣味として写真を始めて10年近くになります。ジャンルは決まっていますが、街に出て気になる場面、瞬間を撮るのを楽しみに続けてまいりました。今回の受賞を励みに、今後も精進してまいりたいと思います。



第74回新聞週間 第28回 日本専門新聞 写真コンクール

加盟社社員・読者及び一般応募 全国から976枚

文部科学大臣賞		
月と太陽のめぐりと富士	中島 明俊	一般応募
理事長賞		
だるまさんは見ていた	田中 雅之	一般応募
審査委員長賞		
シャドーアート	渡邊 哲康	一般応募
加盟社特別賞		
共生の光	鮫島 隆紘	福祉新聞社
秀 作		
童心	倉田 祐介	建設新聞社(仙台)
惑星地球	中本 則昭	一般応募
遙かなる富士	小山 幹男	一般応募
落花	横須賀 洋	一般応募
試合を終えて	佐藤 義敏	一般応募
サーファー	浜口 正雄	一般応募
レッドロード	伊東 靖洋	一般応募
ハチとキタキツネ	入江 貴史	一般応募
東京オリンピック開幕	大島 正美	一般応募
大きな笑顔	山田ひろ子	一般応募
戦友と共に	平井 葉月	一般応募
Reflection	村田 雄平	一般応募
東京を五輪色に染める	中根 英治	一般応募
母と子	三浦エリカ	一般応募
招待作品		
星柱	芝崎 静雄	一般応募
投網	芝崎 静雄	一般応募



加盟社特別賞

共生の光

鮫島隆紘 / 福祉新聞社



空っぽの国立競技場に現れた選手をファインダー越しに見た瞬間、鳥肌が立ったのを覚えています。国や人種、障害など様々な壁を乗り越えて一堂に会する姿は、まさに共生社会へと導く「光」でした。

作品は東京パラリンピックの開幕式で撮影したものです。虹色の花火や聖火台とともに、多様性を表す3枚の組写真にまとめました。

東京パラ取材した報道関係者は国内外から2400人。日本の専門新聞として歴史的なイベントを記録できたことには大きな意義があると考えています。改めて名誉ある賞を頂き、感謝致します。

秀 作



童心
倉田祐介 / 建設新聞社(仙台)



惑星地球
中本則昭 / 一般応募



遙かなる富士
小山幹男 / 一般応募



レッドロード
伊東靖洋 / 一般応募



ハチとキタキツネ
入江貴史 / 一般応募



サーファー
浜口正雄 / 一般応募



東京オリンピック開幕
大島正美 / 一般応募



大きな笑顔
山田ひろ子 / 一般応募



戦友と共に
平井葉月 / 一般応募



落花
横須賀 洋 / 一般応募



東京を五輪色に染める
中根英治 / 一般応募



試合を終えて
佐藤義敏 / 一般応募



Reflection
村田雄平 / 一般応募



母と子
三浦エリカ / 一般応募



投網
芝崎静雄 / 一般応募



星柱
芝崎静雄 / 一般応募

招待作品